特別支援教育　小学部第４・５・６学年　体育科学習指導案

期 日：令和３年１０月２９日（金）　２校時

小学部４～６年（男子２１名女子６名）

場 所：都城きりしま支援学校体育館

指導者：川越まゆみ　 (Ｔ１)　 沼口　竜馬　（Ｔ２）

押川　秋水　 (Ｔ３）　久保友里菜　（Ｔ４）

平岡　千尋　 (Ｔ５）　渡辺　成未　（Ｔ６）

工藤　美紀 　(Ｔ７）　高瀬　雅代　（Ｔ８）

渕田　佳寿 　(Ｔ９)　 治田　里香（Ｔ１０）

大平落恭子 (Ｔ１１）　古川淳一郎 (Ｔ１２)

武田　文博 (Ｔ１３）　坂元嘉代子（Ｔ１４）

大山祐一郎 (Ｔ１５）　野田　裕子（Ｔ１６）

後藤　裕子 (Ｔ１７）

１　　単元名　「ボール運動」

２　　単元の目標

（１）　自分でまたは必要に応じて支援を受けながら、ボールを使った基本的な運動や動き「投げる」「蹴る」「捕る」に取り組み、体を動かす楽しさや心地よさを味わうことができる。

　　（知識及び技能）

（２）　ボールを使った基本的な運動や動きに慣れ、その楽しさや感じたことを表現することができる。

（思考力、判断力、表現力等）

（３）　簡単なきまりを守り、友達とともに安全に楽しく、ボールを使った基本的な運動や動きをしようとすることができる。

（学びに向かう力、人間性等）

３　　運動の一般的特性

本単元は、特別支援学校小学部学習指導要領「体育　Ｅ　ボール遊び（１段階）」、「体育　Ｅ　ボールを使った運動やゲーム（２段階及び３段階）」について単元名を「ボール運動」とした。ボール運動はボールを使って競い合う楽しさに触れたり、友達と力を合わせてゲームをする楽しさや喜びを味わったりすることができる運動である。

ボールを使って楽しく体を動かす運動やゲームとは、「ボールを使った基本的な運動」と「ボールを使ったゲーム」、「友達を追いかけたり逃げたりするゲーム」で構成されている。ボールを投げたり、蹴ったりするといった簡単なボール操作を通して手や足の力の調整やバランスなどを学ぶことや簡単なきまりでゲームを個人対個人、または集団対集団で競い合う楽しさに触れることができる運動であることから、本単元に取り組むことは意義深いと考える。

４　　児童の実態

（１）　運動に触れる楽しさの体験状況

　　　　本校の小学部は、通常学級３０名、重複障がい学級３４名、計６４名（男子４６名、女子１８名）が在籍しており、本単元のグループは４・５・６年生の２７名（男子２１名、女子６名）である。知的障がいだけではなく、肢体不自由や聴覚障がいを有する重複障がい学級と通常学級の児童が合同で学習を行っている。体育の授業は週３時間あり、その中の１時間は表現運動を行っている。体育の授業以外では、休み時間に中庭でブランコや三輪車で楽しく体を動かしたり、教師や友達と鬼ごっこなどをしたりして楽しんでいる児童もいるが、一方で室内遊びを好む児童や体力が低い児童も多く、活動中に怪我をしてしまうことがないように個別的な安全面の配慮が必要である。ボールを使った運動については、５、６年生については同様の授業を経験しており、単元が始まる前から楽しみにしている児童が多い。４年生については低学年時に「ボール遊び」について、同様の授業で「持つ」、「転がす」等の基礎的な動きをサーキット形式で学習をしており、低学年から高学年へスムーズに移行できるように内容を連携させている。

（２） 「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の習得状況

「知識及び技能」に関しては、小学部段階では「ボール遊び」、「ボールを使った運動やゲーム」を学習する上で、簡単なきまりや運動によってボールを投げたり，蹴ったりする技能があるということを知り、中学部や高等部では「球技」への授業に発展していくことを見通した知識の習得が必要である。習得状況としては、児童は簡単なきまり「順番を守ろう」や「時間になったら交代する」等をイラストで表示しているが、意識して守ろうとすることができる児童は全体の約６４％である。また、いろいろな球技の種類があることやそれぞれに必要な技能があることについては知識や興味が乏しく、まだ知らない児童も多い。技能については、「投げる」、「蹴る」、「捕る」などの基本的なボール操作にしぼって取り組んでいる。その際、３段階の児童には見守りや言葉による支援を行い、２段階の児童には教師が手本を示して模倣しやすいようにしている。模倣の難しい１段階の児童については教師が手を添え、一緒に体を動かしながら模倣できるように支援している。

　　　　「思考力、判断力、表現力等」に関しては、発語により自分から発表や気持ちを伝えることが難しい児童が多い。種目を教師と相談して選択すること、発表や意見を仲間に伝えることを、理解しやすい簡単な言葉で授業の目標として提示するようにしている。手立てとして使うイラストカードは以前から活用しているが、ＩＣＴ機器については、まだ導入が始まったばかりであり、体育の授業で活用するのは本単元が初めてである。また、これまでは小学部では体育の授業で学習カードを使用する場面はなく、学級担任による称賛や観察による振り返りしか取り組めていなかった。他教科では生活単元学習のきりっこタイムにおいて同様の学習カードで振り返りを行う場面があり、３段階、２段階の児童は自分の気持ちを伝えようとする様子がみられる。児童が自己評価を行うことはめあての確認になり、「思考力、判断力、表現力」を育てるための1つの手立てとして有効であることを感じたため、体育の授業においても活動量の確保をしつつ、学習カードによる振り返りを今年度から始めたところである。

「学びに向かう力、人間性」に関しては、「きまりを守ろう」や「応援しよう」、「仲良くしよう」についてこれまでも他教科や他の単元で繰り返し指導してきた内容であり、意識できている児童が多く、笑顔で楽しい体育の授業に取り組むことができている。高学年になり準備や片付けについても積極的に取り組む児童が多く見られる。特に６年生については、中学部への準備段階として捉えて、積極的に取り組もうとする児童を称賛するようにしている。

（３）　体力の状況（令和３年度　新体力テスト項目別結果一覧　６年生の結果を参照）

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 児童名 | ５０ｍ(秒) | ハンドボール投げ(ｍ) | 立ち幅跳び(ｍ) | 握力左右平均(ｋｇ) | 上体起こし(回) | 反復横跳び（回） | 長座体前屈(ｃｍ) | シャトルラン(回) |
| Ａ | １４″１８ | ６ | ９７ | ６ | ９ | １１ | １８ | ７ |
| Ｂ | １５″１２ | ４ | ７３ | ３ | ８ | １８ | １５ | １２ |
| Ｃ | １５″３３ | ３ | ７５ | ８ | １１ | ２１ | ２２ | １６ |
| Ｄ | ８″８７ | ８ | １３５ | １０　 | １５ | ２８ | ２５ | ３０ |
| Ｅ | １４″６５ | ４ | ９５ | ９ | 記録なし | ２５ | 記録なし | ７ |
| Ｆ | １９″２２ | １ | ２３ | ５ | ７ | １１ | ２６ | ０ |
| Ｇ | ３９″０９ | ３ | ２７ | ５ |  | 測定不能 | ２６ | ０ |
| Ｈ | １７″９９ | １ | ３７ |  | １０ | 記録なし | 記録なし | １ |
| I | ４１″１８ | １ | １０ | 測定困難 |  | ４ | 測定困難 | ０ |
| J | ３１″７２ | ３ | ２５ | ５ | ５ | １６ | ４０ | ０ |
| Ｋ | １６″５３ | ３ | ９５ | ７ | ８ | １７ | １７ | ７ |
| L | ４４″３９ | １ | ２０ | ２ | ７ | ８ | ３２ | ０ |
| M | ４２″４０ | ４ | １５ | ５ | １０ | ８ | ２５ | ０ |
| N | ２９″８１ | １ | １０ | ２ | ３ | ８ | １６ | ０ |

新体力テストにおいては、正しい測定方法で実施することは難しいが、４、５、６年生のうち約半数が測定方法について概ね理解をして測定ができている。残りの約半数については理解や模倣が難しく、測定困難な児童が多い。また、測定方法を理解はしているが、体の正しい使い方や能力の発揮が難しい児童が多いため、実力を出せた数値とは言えない。小学部段階としては初めて体力測定を経験する段階であるため挑戦する気持ちを大切にし、児童が自発的に取り組む態度を称賛しながら可能な範囲での測定をしている。

５　　学習を進めるに当たって

本単元の学習を進めるに当たっては、手や足でボールを操作する運動であり、様々なボールを投げる、蹴る、捕る、打つ運動を中心に行い、主にサッカーやバスケットボール、野球につながる運動に興味をもち自分に合った運動を選んで取り組むことができるよう授業を展開していきたい。

授業計画の前半５時間を「ねらい１」、後半４時間を「ねらい２」、最後のまとめ３時間を「ねらい３」と設定する。「ねらい１」では、ボール運動の学習について興味のある身近な球技の映像を見て、球技の種類や練習方法などを知る学習をしていく。また、様々なボール運動種目によって、手を使ってボールを投げることや足を使ってボールを蹴ることについて知る。そして、動きを経験し、簡単なルールを確認しながら学習を進めていきたい。「ねらい２」では、「ねらい１」で行ってきたボール運動を、自分で選択する、または教師と一緒に選択し、「この運動をやってみたい」という気持ちを伝えることができるように取り組ませたい。「ねらい３」では、「ねらい１・２」で行った基本的な動きを生かして友達と楽しみながらミニゲームに取り組めるようにしていきたい。

本時の学習では、教師や友達が実際に行ってきたボール運動サーキットの種目をイラストや写真を見て、自分は何をしたいか選ばせてから活動を行う。サーキット運動は、３～４種目できるような時間を設定しておく。選択した種目での活動は、実態に応じて児童ができる内容に設定しておき、Ｔ１の合図で決められた時間内に運動に取り組ませていく。活動中は、児童の活動意欲が継続することや時間の見通しがもてるようにタイマーを効果的に活用していく。活動場所では、動きや操作をイメージしながら確認できるように写真やイラストを掲示する。その中で、よい動きやできたことなどを称賛しながら自信ややる気をもてるようにしていく。学習の振り返りでは、本校での研究テーマでもある中学部、高等部までを見通したつながりある授業の工夫として、学習カードを使用した自己評価の時間を設けた。これまでの体育の授業では観察のみで、取組については、全体を称賛する程度で個別に振り返る時間を設けていなかったので、学習カードを準備することで、頑張ったことや楽しかったことを児童が自己評価できるようにしたい。

授業後には、特別活動（性の学習）で学習した「手洗い指導」や「感染症の予防」、「丈夫な体と病気」の学習を振り返り、うがいや手洗いなどの基本的生活習慣が身に付くように意識させる。また、自立活動の学習内容であるコミュニケーション「気持ちを伝える」ことや生活単元学習（きりっこタイム）における「順番を守ろう」や「時間になったら交代する」、「勝っても負けても笑顔」の学習を進めておく。それにより、児童が体育を学習する上で思考・判断・表現や主体的に学習に取り組む態度をより一層理解し、スムーズな導入につながるようにしたい。

単元途中や単元後も同様に、「学校における体育・健康に関する指導」との関連を十分に考慮し、ボールを使った運動の単元を振り返りながら学習を進めることで、教科等横断的な学びが実現するよう指導を進めていきたい。

６　単元の評価規準　（特別支援学校小学部学習指導要領）

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 小学部３段階 | 小学部２段階 | 小学部１段階 |
| 段階別単元名 | 「ボールを使った運動やゲーム」 | 「ボールを使った運動やゲーム」 | 「ボール遊び」 |
| 知識・技能 | ボールを使った基本的な運動やゲームの楽しさを感じ、その行い方を知り、基本的な動きを身に付けることができる。 | 教師の支援を受けながら、楽しくボールを使った基本的な運動やゲームをすることができる。 | 教師と一緒に、ボールを使って楽しく体を動かすことができる。 |
| 思考・判断・表現 | 　ボールを使った基本的な運動やゲームの楽しみ方を工夫するとともに、考えたことや気付いたことなどを他者に伝えることができる。 | ボールを使った基本的な運動やゲームに慣れ、その楽しさや感じたことを表現することができる。 | 　ボールを使って体を動かすことの楽しさや心地よさを表現することができる。 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | きまりを守り、自分から友達と仲よく楽しくボールを使った基本的な運動やゲームをしたり、場や用具の安全に気を付けたりしようとすることができる。 | 簡単なきまりを守り、友達とともに安全に楽しく、ボールを使った基本的な運動やゲームをしようとすることができる。 | 　簡単な合図や指示に従って、ボール遊びをしようとすることができる。 |

学習活動に即した評価規準

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 実態別グループ | 小学部３段階Ａ  | 小学部２段階Ｂ | 小学部1段階Ｃ |
| 知識 | ・球技には、友達と力を合わせて、ゲームをしたり体を動かしたりする運動があることを知り、球技の楽しさや喜びに触れている。（Ａ－１） | ・友達と一緒に、運動をすることは楽しいことだと知っている。（Ａ－１） | ・友達や教師と一緒に、運動をすることは楽しいことだと知っている。（Ａ－１） |
| ・パスやドリブル、シュートなどのボール操作をしながら、得点することを知っている。（Ａ－２） | ・投げる、転がす、捕るなどの ボール操作をしながら、ボールをゴールまで運ぶことを知っている。（Ａ－２） | ・投げる、転がす、捕るなどのボール操作があることを知っている。（Ａ－２） |
| 技能 | ・ねらったところにボールを転がしたり、投げる、蹴るなどしてゴールにシュートをして得点したりすることができる。（Ｂ－１） | ・ねらったところにボールを転がしたり、投げたり、蹴ったりして的に当てたり得点したりすることができる。（Ｂ－１） | ・ボールを転がす、投げる、蹴るなどして、的に当てることができる。（Ｂ－１） |
| ・友達と一緒にボールを投げる、捕る、蹴る、止めるなどの動きでキャッチボールやパスをしたり、ゴールに向かってシュートをしたりすることができる。（Ｂ－２） | ・つく、転がす、投げる、当てる、捕る、打つ、蹴る、止めるなどの簡単な操作を行うことができる。（Ｂ－２）・先生や友だちとボールの蹴り合いをすることができる。（Ｂ－２） | ・ボールを転がす、投げる、蹴ることができる。（Ｂ－２） |
| 思考・判断・表現 | ・自分が取り組みたい活動を主体的に選択することができる。(C-1･2･3) | ・自分が取り組みたい活動を、イラストカードから選択している。（Ｃ－１･２･３） | ・教師と一緒に活動を選択し、選択した活動に取り組んでいる。（Ｃ－１･２･３） |
| ・　自分の考えや気付いたことを他者に伝えることができる。（Ｃ－４） | ・　教師の支援を受けながら、自分の考えや気付いたことを他者に伝えることができる。（Ｃ－４） | ・　教師と一緒に運動の楽しさや心地よさを表情や仕草で表現することができる。（Ｃ－４） |
| 主体的に学習に取り組む態度 | ・簡単なきまりを守り、友達と楽しくボールを使った基本的な運動やゲームに参加しようとしている。　　（Ｄ－１～４） | ・簡単なきまりを確認し、楽しくボールを使った基本的な運動やゲームに参加しようとしている（Ｄ－１～４） | ・教師と一緒に簡単なきまりを確認し、ボールを使った基本的な運動やゲームに参加しようとしている。　（Ｄ－１） |
| ・用具の安全な扱い方に気を付けようとしている。　（Ｄ－５） | ・教師の支援を受けながら、用具の安全な扱い方に気を付けようとしている。（Ｄ－５） | ・教師と一緒に、用具を安全に扱おうとしている。　（Ｄ－５） |

※網掛け部分が本単元の評価規準

７　指導と評価の計画（ボールを使った運動やゲーム　小学部４・５・６年生）

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 時間 |  | １ | ２ | ３ | ４ | ５ |
| 指導内容 | 知 | Ａ－１ | Ａ－１ |  |  |  |
| 技 |  |  | Ｂ－２ |  |  |
| 思 |  |  |  | Ｃ－４ |  |
| 態 | Ｄ－５ | Ｄ－１ | Ｄ－２ |  | Ｄ－１ |
| 学習過程 | ０１０２０ | １　学級で挨拶・本時の学習を知る。２オリエンテーションー○学習の流れを知り、見通しをもたせる。○映像を見て運動の種類や体の使い方について知る。３　集合し、説明を聞く。ねらい１（ボール運動について）しろう　（練習方法について）しろうやってみよう　じゅんばんをまもろう　じかんをまもろう４　ボール運動の手本をみる。５　準備運動とボール運動をする。 | １　３分間走を行う。２　集合、挨拶、ラジオ体操をする。①　３分間走をする　　（「終わりました」と確認する。）②　はじめの挨拶　　　（「終わりました」と確認する。）③　ラジオ体操３本時の学習を知る。④学習内容を知る⑤ボール運動⑥振り返り⑦おわりの挨拶４　ボール運動をする。○シュートしよう　○ドリブルしよう　○パスしよう（バスケット・サッカー）○うとう　○キャッチしよう　○なげよう（やきゅう）　　○シュートしよう　　○うとう　 |
| ４０ | ６　振り返りをする。７　挨拶をする。 | ５　振り返りをする。６　挨拶をする。 |
| 評　価 | 知 | 観察 | 観察 |  |  |  |
| 技 |  |  | 観察 |  |  |
| 思 |  |  |  | 学習カード |  |
| 態 | 学習カード | 観察 | 学習カード |  | 観察 |
| 準備物 | パソコン動画のﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ | CDデッキ、マイク、タイマー、タブレット端末、カラーコーン６、サッカーボール６、サッカーゴール１、バスケットのゴール１、バランスボール１、バスケットボール６、かご９、活動の内容表、ストラックアウト板、野球用ボール６，バット２、学習カード |
| 他教科との関連 | 特別活動（せいの学習）「手洗い指導」「感染症の予防」「丈夫な体と病気」自立活動の学習内容（コミュニケーション「気持ちを伝える」）生活単元学習（きりっこタイム）「順番を守る」「時間を守る」「勝敗の受け入れ」道徳科：「あきらめない心」「相手を理解する心」 |
| 時間 |  | ６(本時) | ７ | ８ | ９ | １０ | １１ | １２ |
| 指導内容 | 知 |  |  |  |  | Ａ－１ |  |  |
| 技 |  |  |  | Ｂ－２ |  |  | Ｂ－２ |
| 思 | Ｃ－１～３･４ |  |  | Ｃ－４ |  |  |  |
| 態 |  | Ｄ－５ | Ｄ－４ |  | Ｄ－１ | Ｄ－２ | Ｄ－４ |
| 学習過程 | ０１０２０ | １　３分間走をする。２　集合、挨拶、ラジオ体操をする。1. ３分間走をする
2. はじめの挨拶
3. ラジオ体操

　３　本時の学習を知る。④　学習内容を知る⑤　ボール運動⑥　振り返り⑦　おわりの挨拶４　ボール運動をする。ねらい２えらぼう　つたえよう　　やってみようチャレンジしよう　　もとにもどそう　　はっぴょうしよう○シュートしよう　○ドリブルしよう　○パスしよう（バスケット・サッカー）○うとう　　○キャッチしよう　○なげよう（やきゅう）　　○シュートしよう　　○うとう　 | １　３分間走をする。２　集合、挨拶、ラジオ体操をする①　３分間走をする②　はじめの挨拶③　ラジオ体操３　本時の学習を知る。④　学習内容を知る⑤　ミニゲーム⑥　振り返り⑦　おわりの挨拶４　ミニゲームをする。ねらい３ゲームをしようなかよくたのしもうやってみよう　おうえんしよう　　　○ときりサッカー○ときりやきゅう○ときりバスケット |
| ４０ | ５　振り返りをする。６　挨拶をする。 | ５　振り返りをする。６　挨拶をする。 |
| 評　価 | 知 |  |  |  |  | 観察 |  |  |
| 技 |  |  |  | 観察 |  |  | 観察 |
| 思 | 学習カード |  |  | 観察 |  |  |  |
| 態 |  | 観察 | 観察 |  | 学習カード | 学習カード | 観察 |
| 準備物 | CDデッキ、マイク、タイマー、タブレット端末、カラーコーン６、サッカーボール６、サッカーゴール１、バスケットのゴール１、バランスボール１、バスケットボール６、かご９、活動の内容表、ストラックアウト板、野球用ボール６，バット２、学習カード | CDデッキ、マイク、タイマー、タブレット端末、カラーコーン４、活動の内容表、サッカー用具・バスケットボール用具一式・野球用具一式　、学習カード |
| 他教科との関連 | 特別活動（せいの学習）「手洗い指導」「感染症の予防」「丈夫な体と病気」自立活動の学習内容（コミュニケーション「気持ちを伝える」）生活単元学習（きりっこタイム）「順番を守る」「時間を守る」「勝敗の受け入れ」道徳科：「あきらめない心」「相手を理解する心」 |

８　本時の目標（６／１２）

Ａ: 少ない支援で活動できるグループ（小学部３段階）

Ｂ: 場面に応じた支援で活動できるグループ（小学部２段階）

Ｃ: 支援を常時必要とする児童グループ（小学部１段階）

（1）　本時の目標

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | グループ・段階 | 目　　標 |
| 思考力、判断力、表現力等 | Ａ | 小学部３段階 | ・自分が取り組みたい活動を主体的に選択することができる。・自分の考えや気付いたことを他者に伝えることができる。 |
| Ｂ | 小学部２段階 | ・自分が取り組みたい活動を、イラストから選択している。・教師の支援を受けながら、自分の考えや気付いたことを他者に伝えることができる。 |
| Ｃ | 小学部１段階 | ・教師と一緒に活動を選択し、選択した活動に取り組んでいる。・教師と一緒に運動の楽しさや心地よさを表情や仕草で表現することができる。 |

（2）本時の評価項目

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | グループ・段階 | 評　価　項　目 |
| 思考・判断・表現 | Ａ | 小学部３段階 | ・自分が取り組みたい活動を主体的に選択することができたか。・自分の考えや気付いたことを他者に伝えることができたか。 |
| Ｂ | 小学部２段階 | ・自分が取り組みたい活動を、イラストから選択することができたか。・教師の支援を受けながら、自分の考えや気付いたことを他者に伝えることができたか。 |
| Ｃ | 小学部１段階 | ・教師と一緒に活動を選択し、選択した活動に取り組むことができたか。・教師と一緒に運動の楽しさや心地よさを表情や仕草で表現することができたか。 |

９　学習指導過程

※下線部は、「指導と評価の計画」手立ての一体化表より抜粋

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 時間 | 学習内容及び活動 | グループ別学習活動及び教師の支援 | 資料準備 |
| A | B | C |
| 小学部３段階（赤ビブス） | 小学部２段階（青ビブス） | 小学部１段階（ビブスなし） |
| はじめ1０なか2０ | １　３分間走をする。２　はじめの挨拶をする。３　ラジオ体操をする。４　本時の学習内容を知る。1. ３ぷんかんそう
2. あいさつ
3. ラジオたいそう
4. せんせいのはなし
5. ボールうんどう
6. ふりかえり
7. おわりのあいさつ
 | **体育館に集合し、３分間走をする。**・追い抜くときは安全に気を付けるように言葉を掛ける。（Ｔ２）・　感染対策のため授業前に各学級担任が手洗いと人数確認、体調チェックを行う。欠席者がいる場合は各学級担任より報告を受ける。（T1）・　感染症対策のため体育館の窓を開け、3密を防ぎ安全を確保する。（Ｔ２）・　本時の流れがわかるようにホワイトボードに掲示物を掲示する。（Ｔ１）**体操隊形に広がり、ラジオ運動をする。**・児童の見える位置で手本を示しながら一緒に体操し、自発的な動きにあわせて身体的補助をしながら体操をする。（Ｔ３～７、Ｔ１１～１７）・児童に見える位置で手本を示しながら一緒に体操し、自発的な動きができているところは称賛する。（Ｔ８～１０）・体操のポイントであるかかとの上げ下げや腕の伸ばし方について意識ができているところは称賛する。（Ｔ２）本時の学習の流れについて、教師の話を聞く。本時の目標を確認する。「やりたい運動を選ぼう。」「やりたい運動を伝えよう。」・本時の学習の流れや目標について見通しがもてるように写真やイラストを提示する。（Ｔ1）・前時までの学習で取り組んだ内容を思い出せるようにカードを提示する。（Ｔ１）・授業に消極的な児童には、楽しそうな活動であることを伝えて気持ちが高まるように言葉掛けをする。（Ｔ２～Ｔ１７）・前時までの目標である「やってみよう」についても振り返りながら本時はやってみたい運動から取り組むことができることを伝える。（Ｔ１）・教師と一緒に活動のめあてを確認させる。・学習のめあてカードを使用し、教師の呼びかけで確認させる。・学習のめあてカードを使用し、確認させる。**友達や教師と一緒に運動を選び活動場所に移動する。****・前時までの授業で児童が興味を示した用具や場所を提示したり、ＩＣＴ機器を活用して運動の動画を確認したりすることで興味を示すのを待つ。****・表情や態度から意思を読み取り、興味を示した場所に誘導し、自発的に取り組もうとするのを待つ。動きがない場合は介助したり言葉掛けをしたりする。**（Ｔ２、Ｔ５、Ｔ１２、Ｔ１３、Ｔ１５、Ｔ１６）**・教師と相談する際に、自分の考えを、イラストカードを使用して選択したり、伝えたりする場面を設定する。****・前時までの活動で体験を積ませ、取組のよかった活動から選ぶことができるように言葉掛けをする。**（Ｔ３、Ｔ４、Ｔ６、Ｔ７、Ｔ８、Ｔ１０、Ｔ１１、Ｔ１４）**・使用した用具や場所の確認を行い、ＩＣＴ機器を活用して運動の動画を確認し、取り組みたい活動をボードに貼り伝えられるように時間を設定する。****・前時までの活動で成功体験を積ませ、自信をもって選ぶことができるように助言する。（**Ｔ１、Ｔ９、Ｔ１７） | ・係が「２を出して下さい。」と言ったら２の指文字ができているか全体を確認する。（Ｔ１）・係が「始めます。礼」と言った後に、Ｔ１が全体の声に合わせて「お願いします。」とマイクで言い、誘導する。（Ｔ１）**係の号令に合わせて、始まりのあいさつをする。**・実態に応じて手をつないだり、併走や後ろからの見守りをしたりしながら、児童と一緒に走り、必要に応じて安全面について言葉を掛ける。（Ｔ８～１０） | ・児童と一緒に併走をする。必要に応じて手をつなぐようにする。安全面に注意をして誘導する。・走ることが難しい児童はコーンの内側を歩くように促す。必要に応じて手をつなぐようにする。(Ｔ３～７、１１～１７） | ・　ホワイトボード・　マイク・　タイマー・　写真・イラスト・　CD・CDデッキ・　カラーコーン４・　活動の内容表・　めあてカード・　ＣＤ・　活動の内容表・　学習のめあてカード・　イラストカード・　ICT機器 |
|  | ５　ボール運動サーキットをする。サッカー○シュートしよう○ドリブルしよう○パスしようバスケットボール○シュートしよう○ドリブルしよう○パスしよう野球○うとう○なげよう○キャッチしよう | ・やりたい運動は何かボードに貼りに行かせる。必要に応じて運動の正しい行い方や安全面での注意点について言葉を掛ける。・３段階の児童は、１つの運動が終わったら、次にやりたい運動をボードに貼るように伝えておく。（Ｔ１、Ｔ９、Ｔ１７） | ・決められた時間になったら練習の終わりを知らせ、各学級で片付けさせる。（Ｔ1）**選んだ運動を行う。**・やりたい運動は何か教師と相談して移動する。・手本を見せながら行う。（Ｔ４、Ｔ７、Ｔ８，Ｔ９，Ｔ１０，Ｔ１１） | ・教師が児童の実態や課題に応じて次の運動を提案して次の場所へ誘導する。手本を見せて一緒に行う。（Ｔ２、Ｔ３，Ｔ５，Ｔ６、Ｔ１２，Ｔ１３，Ｔ１４，Ｔ１５，Ｔ１６）**タイマーが鳴ったら次の活動に移る。３分を３カ所行う。** | ・　カラーコーン６・　サッカーボール６・　サッカーゴール１・　バスケットのゴール１・　バランスボール１・　バスケットボール６・　ストラックアウト・　野球用ボール（テニスボール）６・　バット２・　ＣＤ |
| まとめ１０ | ６　振り返り７　終わりの挨拶をする。 | **本時の振り返りを行う。****・自分の気持ちや選んだ運動について言葉で伝えることができるように助言する。****・発言するときに１人ずつ時間を設ける。****・　学習カードに自己評価のシールを貼らせる。**・　評価カードを見せて、各学級の達成具合を紹介する。（Ｔ１）・　楽しく自主的に活動できていた児童や、意見を伝えることができた児童について称賛する。（Ｔ１、Ｔ２）・　次時も好きな運動や苦手な運動を自分で選択して活動することを伝える。（T１） | **・自分の気持ちや選んだ運動について言葉で伝えることができるように教師が選択肢を与える。****・話し言葉やカードの指差しなどで表現できるようにする。****・学習カードに自己評価のシールを貼らせる。**・係が「２を出して下さい。」と言ったら２の指文字ができているか全体を確認する。（Ｔ１）・係が「終わります。礼」と言った後に、Ｔ１が全体の声に合わせて「ありがとうございました。」とマイクで言い、誘導する。（Ｔ1） | **・　活動に使用する際に、児童の状況や仕草から興味を示したことを読み取り、児童に問いかける時間を設ける。****・　教師と一緒に学習カードに自己評価のシールを貼らせる。****係の号令に合わせて、終わりのあいさつをする。** | ・　ホワイトボード・　評価シール・　学習カード |

１０　本単元に関する児童の実態及び本時の目標

【評価規準】◎・・・よくできた　○・・・できた　△・・・もう少し

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 氏名 | 児童の実態 | 本時の目標 | 評価項目 | 評価 |
| 小学部３段階 | Ａ | ボールを使って体を動かすことが好きである。周りの意見に合わせることは少なく、自分から意見を伝えることが多い。 | ・自分が取り組みたい活動を主体的に選択することができる。 | ・自分が取り組みたい活動を主体的に選択することができたか。 |  |
| ・自分の考えや気付いたことを他者に伝えることができる。 | ・自分の考えや気付いたことを他者に伝えることができたか。 |  |
| Ｂ | ボールを使って体を動かすことが得意である。自分のやりたい活動よりも友だちの意見にあわせることが多い。 | ・自分が取り組みたい活動を主体的に選択することができる。 | ・自分が取り組みたい活動を主体的に選択することができたか。 |  |
| ・自分の考えや気付いたことを他者に伝えることができる。 | ・自分の考えや気付いたことを他者に伝えることができたか。 |  |
| 小　　　　　　　　　　　　　学部２段階 | Ｃ | ボールを投げたり蹴ったりすることができる。失敗すると自信をなくし、消極的になることがある。 | ・自分が取り組みたい活動を、イラストから選択している。 | ・自分が取り組みたい活動を、イラストから選択することができたか。 |  |
| ・教師の支援を受けながら、自分の考えや気付いたことを他者に伝えることができる。 | ・教師の支援を受けながら、自分の考えや気付いたことを他者に伝えることができたか。 |  |
| Ｄ | 簡単なきまりを守って活動することができる。自分から意見を伝えることは苦手である。 | ・自分が取り組みたい活動を、イラストから選択している。 | ・自分が取り組みたい活動を、イラストから選択することができたか。 |  |
| ・教師の支援を受けながら、自分の考えや気付いたことを他者に伝えることができる。 | ・教師の支援を受けながら、自分の考えや気付いたことを他者に伝えることができたか。 |  |
| 小学部１段階 | Ｅ | 指示理解は難しいが教師の模倣をすることができる。初めての活動や環境の変化は嬉しくて興奮気味になることがある。 | ･教師と一緒に活動を選択し、選択した活動に取り組むことができる。 | ･教師と一緒に活動を選択し、選択した活動に取り組むことができたか。 |  |
| ･教師と一緒に運動の楽しさや心地よさを表情や仕草で表現することができる。 | ･教師と一緒に運動の楽しさや心地よさを表情や仕草で表現することができたか。 |  |
| Ｆ | 自発的な動きは少ないが、教師が手を添えると体を動かそうとすることができる。表情や態度で運動への意欲を表すことができる。 | ･教師と一緒に活動を選択し、選択した活動に取り組むことができる。 | ･教師と一緒に活動を選択し、選択した活動に取り組むことができたか。 |  |
| ･教師と一緒に運動の楽しさや心地よさを表情や仕草で表現することができる。 | ･教師と一緒に運動の楽しさや心地よさを表情や仕草で表現することができたか。 |  |

※児童全員分作成しているが、参考資料として各グループ２名ずつ記載。